



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第24号(2008年8月15日)

#### 「集中投資の先駆者達」

長期にわたり市場を上回る運用成績を上げてきた投資家は複数存在します。彼らが成功した理由は、ただ単に運が良かったからではなく、企業の実態価値に対して株価が割安な銘柄に、集中して投資するという原則に従ってきたからです。今日はその中で代表的な人物の実績をご紹介します。

まず一人目は、ジョン・メイナード・ケインズです。ケインズは経済学者として有名ですが、投資家としても成功しました。彼はケンブリッジ大学の基金を運用していましたが、1928年-1945年に英国市場の年率平均リターンが-0.5%であったのに対して、+13.2%という年率平均リターンを達成しました。彼は投資原則を以下の通りまとめています。1) 企業の実態価値と比較して株価が割安である銘柄に絞って投資する。2) 投資判断に誤りがない限り、保有し続ける。3) 銘柄ごとのウエイトは高めても、バランスのとれたポートフォリオを維持する。これらの投資原則から、ケインズは少数の銘柄に集中投資し、長期保有していたと考えられます。

2人目は、ウォーレン・バフェットです。彼は世界最大の投資持株会社であるバークシャー・ハサウエイの最高経営責任者で、敬愛を込めて「オマハの賢人」とも呼ばれています。また、フォーブスの世界長者番付では、2008年版で第1位にランキングされています。彼がバークシャー・ハサウエイのパートナーシップの運用を行っていた、1957年-1969年までにダウ工業平均株価の年率平均リターンが+8.6%であったのに対して、+30.4%の年率平均リターンを達成しました。バフェットのポートフォリオは企業の実態価値に対して株価が大幅に割安な銘柄にのみ集中して投資することで、株価下落による損失の可能性を最小限に抑え、株価上昇の恩恵を最大にしようとしているようです。

このほかにも、バークシャー・ハサウエイの副会長であるチャーリー・マンガーは、1962年-1975年にダウ工業平均株価の年率平均リターンが+6.4%であったのに対して、年率平均リターン+24.3%を達成しました。また、バフェットが1969年に解散したパートナーシップの資金運用を引き継いでセコイアファンドを立ち上げたビル・ルーアンは、1971年-2003年にS&P500の年率平均リターンが+12.9%であったのに対して、年率平均リターン+18.0%を達成しました。さらに、バフェットに誘われて1979年に、当時米国で7番目に大きい自動車保険会社であったGEICOに資産運用部門の最高責任者として入社し現在はCEOであるルー・シン普森は、GEICOのポートフォリオを運用していましたが、1980年-1996年のS&P500の年率平均リターンが+17.8%であったのに対して、年率平均リターン+24.7%を達成しました。

彼らが、企業の実態価値に対して株価が割安な銘柄に、集中して投資するという、同じ原則に従って実績を残してきたことから、彼らがただ単に運が良かったわけではないことが、お分かりいただけたと思います。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。